

五郎沼通信



この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。

(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」

事務局 瀬川峰雄

紫波町南日詰字小路口70-1

電話：019-672-2656

FAX：019-601-2686

携帯：090-2270-6771

m-mail：segawa@mineo.jp

Pcmail：info@shiwakankyo.com

古代ハス池 今年は大繁茂！

7月6日(土)に、五郎沼の堤体の草刈りをいつもどおり行おうとしましたが、今年は写真でもお分かりの通り、古代ハス池の中の雑草が繁茂し、大変な状態になっていました。

原因としては、数年ぶりに行った古代ハスへの施肥が、雑草にも好都合の状態となつてしまったためと考えられます。

そこで今回は、当日集った「史跡五郎沼愛護会」の会員が、直接、古代ハス池に入つて雑草刈り取りを実施しました。

ちょうど、古代ハスは前日(5日)に咲き出したばかりでしたので、地中の茎に気をつけながらの作業でしたが、それでも、なんと

か数時間かけて古代ハス池をきれいにすることができました。

ところで、葉が長い(1m以上になる)雑草はイネ科でしようが、この辺では「ガズギ」と言い、地下根を取るか根まで枯らす薬品で時期を見て(ハスには影響がないように)処理しないようです。

◎ガズギ

はなガツミ「マコモ」と言つて根の近くの芋は食用にもなるようです。しかし、ハスより大きくなるため、手作業による刈取り、または薬品で除く方法しか、現在は考えられないですが、会員の方々の中で、良い方法がございましたら、事務局までご連絡頂けたら助かります。



特に北西部の雑草が大繁茂



ハスを傷つけないように、慎重に……



雑草がとれて、古代ハスは今年もきれいに咲いてくれるでしょう！

五郎沼の野鳥たち

～ 五郎沼に憧れの鳥が出没することです ～

①カイツブリ



五郎沼での親子づれ

全長26cmほどで夏羽では首は赤茶色、冬羽では黄茶色です。足には各指にみずかきがあり、潜水は足だけで泳ぎますが、小魚、ザリガニ、エビ類、水生昆虫などを食べています。

春に、池や沼や湖でそこに浮いていたかと思うとアツという間にもぐってしまい、あちらの方でポッカー浮かびあがる潜水の名手。カモなどと一緒にいると、カモの

子供に見られてしまうことがあります。水草を積み重ねて水面に浮巣をつくり、夏のはじめ、綿毛のようなかわいいヒナを連れて泳いでいます。

(サントリー-日本鳥百科より)

②カワセミ(翡翠)

全長は17cmほどで、長いくちばしのため体はスズメほどの大きさ。日本のカワセミ科のなかでは最小種です。翼開長は約25cm体重19-40gくちばしが長くて、オスのくちばしは黒いですが、メスは下のくちばしが赤いのでオスと区別できます。また、若干メスよりオスの方が色鮮やか。頭、頬、背中は青く、頭は鱗のような模様があります。喉と耳の辺りが白く、胸と腹と眼の前後は橙色。足は赤

い。幼鳥は全体に黒っぽく、光沢が少ないです。

カワセミの青色は色素によるものではなく、羽毛にある微細構造により光の加減で青く見えます。この美しい外見から「溪流の宝石」などと呼ばれ、特に両翼の間からのぞく背中の水色は鮮やかで、光の当たり方によっては緑色にも見えます。漢字表記がヒスイ(翡翠)と同じなのはこのためです。

(ウィキペディアより)



五郎沼でのカワセミ

「ひづめ館懇話会」設立10周年記念行事が開催

7月7日（日）に設立10年を迎えた「ひづめ館懇話会（高橋敬明会長）」の記念行事が開催されました。

内容として「近年の比爪関連遺跡発掘調査成果」「基調講演」「比爪研究の現状と課題」参加者による「パネルディスカッション」と樋爪さん「サミット」と素晴らしく盛りたくさんの一日でした。

基調講演では、柳原東北大学大学院教授より「平泉と並び立つ比爪の実像を知る」と言うテーマで講演をいただきました。



柳原東北大学大学院教授

遺跡等のような「モノ」ではなく「文字」（文献など）から（比爪館は「吾妻鏡」より）歴史を観察していくとの事でした。内容的には、比爪氏が平泉の家臣の立場であれば、源頼朝が攻めてきた時点で、一緒に本来は戦うはずが、そういう文献は残ってなく、むしろ、頼朝が比爪に来た時には平泉とは別に対応している訳です。

また、頼朝の滞在日数も平泉と比爪が数日間であり、「館」といわれるのも厨川館含み三箇所しかないことも考えると、平泉と同等の権力を持っていたと考えるのが妥当と思われるとのことでした。

午後はコーディネータの羽柴氏（紫波町文化財調査員）と先生方によるパネルディスカッションでした。比爪は平泉の分家、家臣と言いつつ以前はしていましたが、岩大平泉研究センターの八重樫氏より、現在までの発掘調査から出てくる発掘面積から見ての埋蔵品の多さからも、平泉同等以上の様子が見えるとのことでした。

最終的には比爪館は「国指定」

にするように地域でも一緒に考えていく必要があると、強調されました。

最後のサミット「全国の“樋爪さん”大集合in紫波！」約900年の時空を越えて、比爪の地に全国より11組（17人）の方々が集まりました。高橋ひづめ館懇話会長は、当初は数人だと思っていたのですが、各地の「樋爪さん」はやはり思いが通じたの形となり、再会の誓いをして懇親会は盛り上りました。

氏名	現住所
樋爪 義則	北海道帯広
樋爪 千鶴子	北海道札幌
樋爪 克好	埼玉県さいたま
樋爪 和夫	富山県高岡
樋爪 数子	富山県南砺
樋爪 憲三	石川県羽咋
樋爪源一郎	石川県白山
樋爪 義信	京都市右京
樋爪 正典	京都市伏見
樋爪 健志	京都府城陽
樋爪 伸二	大阪府八尾



熊谷町長、高橋会長を囲み全国からの「樋爪さん」記念写真

五郎沼が築堤されたところ・比爪藤原氏の時代（13）

②奥州合戦・石名坂の戦

津賀五年（一一八九）の戦い（前後）

六月三日大庭景朝が討伐を命じられ、六月六日大庭景朝が討伐を命じられ、六月九日大庭景朝が討伐を命じられ、六月十二日大庭景朝が討伐を命じられ、六月十五日大庭景朝が討伐を命じられ、六月十八日大庭景朝が討伐を命じられ、六月二十一日大庭景朝が討伐を命じられ、六月二十四日大庭景朝が討伐を命じられ、六月二十七日大庭景朝が討伐を命じられ、六月三十日大庭景朝が討伐を命じられ、七月一日大庭景朝が討伐を命じられ、七月四日大庭景朝が討伐を命じられ、七月七日大庭景朝が討伐を命じられ、七月十日大庭景朝が討伐を命じられ、七月十三日大庭景朝が討伐を命じられ、七月十六日大庭景朝が討伐を命じられ、七月十九日大庭景朝が討伐を命じられ、七月二十一日大庭景朝が討伐を命じられ、七月二十四日大庭景朝が討伐を命じられ、七月二十七日大庭景朝が討伐を命じられ、七月三十日大庭景朝が討伐を命じられ、八月一日大庭景朝が討伐を命じられ、八月四日大庭景朝が討伐を命じられ、八月七日大庭景朝が討伐を命じられ、八月十日大庭景朝が討伐を命じられ、八月十三日大庭景朝が討伐を命じられ、八月十六日大庭景朝が討伐を命じられ、八月十九日大庭景朝が討伐を命じられ、八月二十一日大庭景朝が討伐を命じられ、八月二十四日大庭景朝が討伐を命じられ、八月二十七日大庭景朝が討伐を命じられ、八月三十日大庭景朝が討伐を命じられ、九月一日大庭景朝が討伐を命じられ、九月四日大庭景朝が討伐を命じられ、九月七日大庭景朝が討伐を命じられ、九月十日大庭景朝が討伐を命じられ、九月十三日大庭景朝が討伐を命じられ、九月十六日大庭景朝が討伐を命じられ、九月十九日大庭景朝が討伐を命じられ、九月二十一日大庭景朝が討伐を命じられ、九月二十四日大庭景朝が討伐を命じられ、九月二十七日大庭景朝が討伐を命じられ、九月三十日大庭景朝が討伐を命じられ、十月一日大庭景朝が討伐を命じられ、十月四日大庭景朝が討伐を命じられ、十月七日大庭景朝が討伐を命じられ、十月十日大庭景朝が討伐を命じられ、十月十三日大庭景朝が討伐を命じられ、十月十六日大庭景朝が討伐を命じられ、十月十九日大庭景朝が討伐を命じられ、十月二十一日大庭景朝が討伐を命じられ、十月二十四日大庭景朝が討伐を命じられ、十月二十七日大庭景朝が討伐を命じられ、十月三十日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月一日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月四日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月七日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月十日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月十三日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月十六日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月十九日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月二十一日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月二十四日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月二十七日大庭景朝が討伐を命じられ、十一月三十日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月一日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月四日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月七日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月十日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月十三日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月十六日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月十九日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月二十一日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月二十四日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月二十七日大庭景朝が討伐を命じられ、十二月三十日大庭景朝が討伐を命じられ、



福島盆地から見た石名坂の地形



阿島国・白・い・出を・海は軍のの・にの・六月・文津一、
津山見八河七七陣大七道総の七出七進討六月
賀重駅月の月大月一将月軍大分月陣月言伐三月
志忠（藤七を九軍九と八北源を七頼日朝能景朝
防工田）日越日が日す日陸頼決日朝が庭庭能景朝
墨兵に鎌倉。朝倉頼倉源北比に他大州意許なし
の隊に倉軍軍出朝陸企分他大州意許なし
一部夜着軍軍が陸軍能けに手追筋討
をに、が陣率

限の『吾妻鏡』には「石名坂の戦い」
二、石名坂の戦い
国多・が等の軍のの・とに・戦が念氏石津・破
府賀八混の後が八戦を阿八い勝西合坂八
に城月乱突方総月津月利勝族戦は山月
入（十し然に攻一）定賀志山を越夜、明
る宮二敗の回撃。日（阿津賀志山こ
城日走攻つ。日（阿津賀志山こ
）源るで小に朝、鎌倉
の頼朝原朝原鎌倉
陸朝原朝原鎌倉
奥が方光方

（石地ら、山山しあ側称見地夫稜はと東団す後陸の打
幡の峰こへ道たるにはが通域郡線関浅山とる赦一入の
通道のとと本白は生せか南は谷川道しがが族念いで待
じを両山ほ山狐信じなら部信村郷のて、西存戦て敗（佐つ
い北地地ぼが檀夫たいはの夫と、水隠の近側続国、れ後藤一
たの延行り墳のいで福原と境世はす時領るの伊族ある
て鞍びし、を稜わ、島川呼界に、る代地が伊族ある
福部てて南頂線れこ盆沿ば山お平。のは、達は常
島上お、に点上るの地いれ地い沢武滅そ

破壊。八月八日朝方阿
津賀山の前で矢合に
石名坂の戦い常陸入道
氏西合戦の奮戦で鎌倉
念勝族の奮戦で鎌倉の
が勝利する。奮戦で鎌倉
戦い（石名坂の戦い）
に阿津賀志山こ
とに阿津賀志山こ
の戦い（阿津賀志山こ
軍の総攻撃。小に朝、鎌倉
軍の総攻撃。小に朝、鎌倉
の戦い（阿津賀志山こ
が混戦。然に攻めつ。小に朝、鎌倉
多賀城（宮二敗の回撃。日（阿津賀志山こ
国多賀城（宮二敗の回撃。日（阿津賀志山こ